

授業科目	理学療法概論実習				
担当者	榎 千磨 (実務経験者)・相原 一貴 (実務経験者)・津村 宜秀 (実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	実務経験者3名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

専任教員と共に国内医療施設で見学実習を行う。事前にオリエンテーションと演習を行う。また、見学後も、演習を実施する。

## ■ 到達目標

現在の国内医療施設における理学療法の概観を理解する。特に理学療法士の仕事を理解することと、対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになることが具体的な目標である。

## ■ 授業計画

学内演習：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接、基本的臨床技能について取り上げる。

学外実習：

実習施設 協力医療機関

実習形態 協力医療機関において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、患者と直接に対応する。専任教員は学生の臨床現場を観察し、学生の臨床実習に臨む態度などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

実習の進め方 理学療法概論で学んだ問診、情報収集、評価、運動療法、物理療法などを実際の臨床現場で体験し、理解を深める。実習の進め方は、臨床現場の見学と専任教員のフォローを織り交ぜて実施する。

## ■ 評価方法

実習態度、実習評価、デイリーノート、学内発表の内容を基に判定する。尚、学内演習・学外実習とも欠席は減点とし、特に無断欠席の場合は大幅減点とする。(無断欠席-6、遅刻-2、受講中の注意指導-2点)また、提出物の提出遅れ・内容不備も減点とする。身だしなみなど学外実習において当然求められる事項に関し、教員の指示従わない場合、学外実習を履修することはできず不合格となる。

## ■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

学内演習で学んだコミュニケーションに関する知識を整理し、問診の練習を積んで臨むこと。本実習終了後は、自身の課題を整理し、次の実習に繋げることができるよう心がけておくこと。

## ■ 教科書

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

## ■ 講義受講にあたって

この実習で得られる「理学療法士についての職業理解」「対象者・スタッフとのコミュニケーション経験」は、2年生以降の臨床実習に繋がっていくので、できるだけ沢山の経験を積むようにしてください。